

1. 「油壺温泉」について

(1) 温泉分析

- イ. 源泉名 油壺温泉
- ロ. 泉温 32.2℃
- ハ. 泉質 ナトリウム-塩化物温泉 (高張性・弱アルカリ性・低温泉)
- ニ. pH値 7.5 (弱アルカリ性)
- ホ. 適応症 (療養泉分析に基づく一般的, 泉質の特徴)

きりきず, 末梢循環障害, 冷え性, うつ状態, 皮膚乾燥症, 筋肉もしくは関節の慢性的な痛みまたはこわばり, (関節リウマチ, 変形関節症, 腰痛症, 神経痛, 五十肩, 打撲, ねん挫などの慢性期) 運動麻痺における筋肉のこわばり, 胃腸機能の低下 (胃がもたれる, 腸にガスがたまるなど) 軽症高血圧, 耐糖能異常 (糖尿病), 軽い高コレステロール血症, 軽い喘息または肺気腫, 痔の痛み, 自律神経不安症, ストレスによる諸症状 (睡眠障害など), 病後回復期, 疲労回復, 健康増進

(2) 特徴 (監修: 神奈川県温泉地学研究所)

■温泉成分が濃い高張性の療養泉

油壺温泉は, 環境省の「鉱泉分析法指針」に基づき, 温泉のうち「特に治療の目的に供し得るもの」に認められる「療養泉」にあてはまる温泉です。

この指針には, 「溶存物質」という項目があり, 温泉に含まれる成分が1kg中に1g以上で療養泉になり, さらに10g以上あると「高張性の温泉」に分類されます。

油壺温泉は, 1kg中に17.6gと療養泉の基準の17倍以上も溶存物質が含まれている高張性の温泉となっています。

高張性の温泉は浸透圧が高いため, 脱水作用や角質の剥離, 滅菌作用などがあるとされています。

※皮膚の弱い方は湯あたりしやすいので, 出る前に「かけ湯」をしていただくことをお勧めします。

■化石海水を源泉とする温泉

油壺温泉は, 地下1,514メートルから湧き出す温泉です。

太古の昔, 地殻変動などで古い海水が地中に閉じこめられた海水に, 周囲の地層由来の成分や海藻・草木などが溶け込み「化石海水」となったものが源泉となっています。

油壺温泉の特徴である微黄褐色は, この化石海水に含まれる「フミン酸」によるもので, 保湿性能があり, お肌にうるおいを与えるといわれています。

これは, 「黒湯」, 「モール泉」などと呼ばれる温泉とほぼ同じ成分となっています。

■保温・美肌効果の高い天然温泉

油壺温泉の泉質は「ナトリウム塩化物泉」です。

塩化物泉は保温効果の高い温泉として「熱の湯」と呼ばれることもあります。身体の芯からポカポカ温まり, 出浴後の保温効果も高いうえ, pH7.5と弱アルカリ性であるため, 保温効果も期待できます。

さらに, 油壺温泉には, 天然の美肌・保湿成分といわれ化粧水などにも含まれる「メタケイ酸」が温泉1kgあたり82mg含まれており, 肌の新陳代謝を促進する作用が期待できます。